
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 372 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2014.11.27 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 1046 部*****

□ 目次 □-----

<巻頭言>

“目くらまし”解散の正体を見抜き、

“居直り”を許さないようにしよう 塩谷哲夫

<第 150 回 定例研究会のご案内>

■テーマ：自然災害を考える新たな視点

日時：2014 年 12 月 20 日 (土) 13：30～17：00

<山崎農業研究所総会記念フォーラム(速報)>

■テーマ：山崎記念農業賞受賞者に学ぶ

3. 家族農業を守る……元船橋農産物物産センター・斉藤敏之氏

<お知らせ 1> 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8 完成しました

<お知らせ 2> 山崎農業研究所所報『耕 No.132』発行されました

<編集後記> 「プライドを捨てる」

<巻頭言>

“目くらまし”解散の正体を見抜き、“居直り”を許さないようにしよう

※これは山崎農研の総意としての「巻頭言」ではありません。

私の意見の投稿です。

去る 15 日、安部首相が消費増税延期・衆議院解散を決意したとの報道があったのを受けて、私はちょっと気が急いで、友人たちに携帯電話で下記のような趣旨のメールを送った。その理由は、一番に「国民」の反応を心配したからである。

日銀が金融市場にジャブジャブお金をつぎ込み、政府は大きな財政出動を行

って、円安を誘導し、一部大企業の利益は増加し、株価は上がった。しかし、すでに国外に脱出した多国籍企業に輸出のメリットはなく、輸出は伸びず、逆に輸入諸資材の価格高騰を招いた。賃金は上がらない。こんなわけで国民のふところ具合が良くなりほしくない。実体経済にはアベノミクスの「魔法」が効かない。GDP（国内総生産）が伸びるどころかマイナスになっている。アベノミクスの失敗の実態が次第に明らかになってきた。

彼らは国民の生活の実態に追いつめられた。失敗アベノミクスの正体がばれないうちに、安部首相らは目くらましの策として消費増税延期を表明して、選挙で「国民の信」をだまし取ろう。併せて、集団的自衛権の閣議決定、原発再稼働、閣僚らの不祥事等々を御破算にしておしまおうと企んだ...と私は読んだ。そうして再び政権を握ったら、後は居直ってファッショ的にやりたい放題できると。

私が気がかりなのは、「国民」が「安倍さんは私たちのふところを心配してくれたんだ」なんて騙されてしまうかもしれないということである。

茨城県の地方都市にいるせいかもしれないが、周りの多くの人々は水戸黄門の物語が大好きで、何かとごたごたがあっても、助さんの「この印籠が目に入らぬか」の一言で、みんな揃って土下座して「はは一つ」と頭を下げて一件落着！...という流れになれてしまっている。国民が主権者である民主憲法の世の中なのだからと言っても、与党の代議士先生が黄門様や助さん、格さんのように思ってしまうのか、この習いはしづとく染みついでいて簡単に洗い流せるものではない。

先日、伊丹万作（映画監督。1946年没）のエッセー『戦争責任者の問題』（『映画春秋』、1946）を読んだ。敗戦の翌年のことであるが、だまされて戦争に協力する羽目になってしまったとって自分の責任をないものにしてはいけない。「だまされるということ自体がすでに一つの悪である」と主張し、「〈だまされていた〉とって平気でいられる国民なら、おそらく今後も何度でもだまされるだろう。いや、現在でもすでに別のうそによってだまされ始めているに違いないのである」と厳しく“だまされること”の責任を正している。

また、政治哲学者のハンナ・アーレント（ナチスの強制収容所から脱出。1975年没）はナチスの戦犯アイヒマンの裁判を傍聴して、彼は凡庸な人間であり、命令に従って自らの行為が何をもたらすことになるのかを「考えない」と

いう罪を犯したと断じている。

さて、その後、新聞各社の国民の意向調査の結果が発表されている。国民には政権党の衣の下がまだ見えていないらしいデータがうかがわれて、やっぱり心配だ。単独で現政権にとって代わり得る野党は見当たらない。与党にすり寄りた名ばかり野党もある。でも、皆さん、だまされずに、真の民意をはっきり示すようにしようではありませんか。県民が心を合わせて、与党の買収策に乗らずに普天間基地をきっぱり拒否した沖縄の人々のように。

塩谷哲夫

山崎農業研究所幹事

yamazaki@yamazaki-i.org

<第 150 回 定例研究会 (12/20) のご案内>

■テーマ：自然災害を考える新たな視点

広島市の土石流災害では多数の住民が犠牲となった。この災害は、無計画な都市開発がもたらした人災の可能性も少なくないものと考えられ、今後とも、気候変動がもたらす災害が増える可能性が高い。

災害は、住宅地に近接した災害危険区域だけでなく発生し、ダムやため池、砂防ダムなどのインフラの被害が多発する可能性もある。今回は、こうした自然災害について 2 名の方の報告を基に自然災害に対する考え方等についての議論を深める。

◆日時：12 月 20 日 (土) 13 : 30 ~ 17 : 00

◆場所：NTC コンサルタンツ (株) 会議室

東京都中野区中野区本町 1-32-2 ハーモニータワー 20F

Tel 03-5333-2051 Fax 03-5333-2055

◆話題提供と質疑応答 (13 : 30 ~ 17 : 00)

1. 豪雨災害に備える自主防災力向上を目指した地域活動の展開
— 甲府市帯那地区での手作り防災マップ WS から地区警戒

雨量基準の策定まで

重岡 徹氏

(独) 農村工学研究所主任研究員)

2. 溪流保護から見る土石流災害と砂防問題

田口康夫氏

NPO 法人 溪流保護ネットワーク・砂防ダムを考える代表

※参加費：500 円

◆意見交流会&忘年会 (17:30~19:30)

話題提供者を交えての自由な意見交換会

※参加費：4000 円

※参加申し込み：参加希望者は事前に下記へご連絡下さい。

会員外の参加も歓迎いたします。TEL：03-5333-2051 (益永)

e-Mail：y.masunaga@ntc-c.co.jp

<山崎農業研究所総会記念フォーラム (速報) >

日時：2014 年 7 月 26 日 (土) 13:00~17:00

場所：東京都新宿 2 丁目 19-1 ビッグスビル B21 会議室

テーマ：山崎記念農業賞受賞者に学ぶ

1. 経過と評価.....事務局長・小泉浩郎氏

2. 在来品種を磨く

(第 33 回 (2008 年) 受賞) 野口種苗研究所代表・野口 勲氏

3. 家族農業経営を守る

(第 13 回 (1987 年) 受賞) 元船橋農産物物産センター・斉藤敏之氏

4. 耕してこそ農業

(第 36 回 (2012 年) 受賞) 福島県有機農業ネットワーク理事・大河原 海氏

3. 家族農業を守る.....元船橋農産物物産センター・斉藤敏之氏

山崎農業賞を頂いた「船橋農産物供給センター」の経過や成果については『食料主権』(2000/03) に詳しく記載している。参照いただきたい。今年国際家族農業年、わが国の動向と関連を検討する。

今、喧騒な農業改革は、農地法は賞味期限切れ、農地解放の負の遺産の清算として民間企業が障害なく農業参入できる条件作りにある。戦後、農業・農村の現場で頑張ってきたことはなんだったのか。この不連続な改革に違和感を持つ。

戦後の農地改革は、アメリカの日本占領政策の重要な柱として、(1)土地無き物に土地を、(2)地主支配からの開放という農業・農村の立て直しと共に、(3)反共の砦と位置づけられた。

地主制度から解放された小作農は、自作農として生産力を高め、農村の基盤であり、これを守り育てるのが農業協同組合である。ところが現在、大規模化という農業再編、新自由主義的農協再編を進め、家族農業の解体へと進みつつある。

アメリカは日本農業が発展することを望んでいない。先ず食の支配である。1954年の学校給食法では完全給食とは「給食内容がパン（これに準ずる小麦粉製品を含む）ミルク及びおかずである給食」と規定されていた（現行学校給食法では、完全給食に米飯が加えられている）。

次が流通の支配である。大店法の改正も郊外に大型店舗が作られ、シャッター一街を残し家族経営の八百屋を潰してしまった。こうして小規模「日本農業割高論」を展開、農業の大規模化、法人化を進め、戦後レジームのからの脱却と急進・拙速な農業改革が叫ばれている。

アメリカの大企業による農業支配は、世界各地に展開している。遺伝子組み換え綿作と、農薬被害、燃料用コーンの栽培拡大と水不足による牧草の高騰、企業との契約農業での負債の拡大などである。

国際協同組合同盟（ICA）は、日本の一連の農業改革に「日本の農協と家族農業を脅かす」と批難の声明を出し（2014/06）、家族経営の価値を認めず企業による農業を促進していると警告をしている。

大規模企業経営が未来を担えるか。大規模経営ほど総所得に対する国の所得補償が高い。農民連の作成資料によると（水田経営 2011）販売農家平均 6.3% に対し 20ha 以上は 50.6% を占める。補助金なしには経営の存立は難しい。

地域を基盤とした新たな家族経営の動きがある。例えば、「みどりのふるさと協力隊」(農山村再生・若者白書 2010)がある。都会の若者を農山村の自治体に1年間派遣する事業で1994年スタート、16期までで465人が参加、その4割以上が派遣先で就農、結婚して留まっている。3.11以降、若者の農業・農村を見る眼が変わったように思う。

(文責：安富・田口)

<お知らせ 1> 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8 完成しました

山崎農研編集「平成のマドンナ」シリーズ No.8(B5版・30ページ)が完成しました。既発行分も含め、電子版あるいは冊子で頒布しています。送料込み500円です。ご希望の方は yamazaki@yamazaki-i.org までご連絡ください。

(新刊)

No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ

栃木県那須塩原市

酪農・教育ファーム・レストラン 人見みゆ子さん

(阿久津加居聞き書き)

(既刊)

No.1 都市近郊に「オアシス牧場」を

埼玉県上尾市 榎本美津子さん(小井川敏子聞き書き)

No.2 世羅高原のそよ風になりたい

広島県世羅町 井上幸枝さん(後由美子聞き書き)

No.3 むらにまちにこどもたちにふるさとの味を伝えたい

鳥取県鳥取市 西山徳枝さん(小泉浩郎聞き書き)

No.4 働きやすい作業環境の改善

徳島県 藍住地区のお母さん達(小林徳子聞き書き)

No.5 「奥久慈の味」から広がる出会い

茨城県大子町 齊藤キヌ子さん(臼井雅子聞き書き)

No.6 デパートに進出した農村女性

栃木県宇都宮市 アグリランドシティショップ(阿久津加居聞き書き)

No.7 貧しさに学びこころ豊かに生きる

群馬県嬭恋村 丸山みち子(丸山みち子著)

No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ

栃木県那須塩原市 人見きみ子さん（阿久津加居聞き書き）

No.9 （近刊）月に手が届く山間農家に嫁いで

高知県土佐町 和田計美さん

<お知らせ 2> 山崎農業研究所所報『耕 No.132』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.133』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000 円）いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

■山崎農業研究所 40 周年記念

山崎農業研究所を支える力— 40 年を振り返って◎安富六郎

〈山崎イズムを現代に問う〉

- ・ 研究活動における山崎イズム◎田淵俊雄
- ・ 研究をもっと技術に生かすために◎多田 敦
- ・ 山崎不二夫先生の全人間的な研究実践に学ぶ◎熊澤喜久雄
- ・ コンサルタントと研究所◎横澤 誠

〈研究所活動をめぐって〉

- ・ 現地に学び現地とともに◎小泉浩郎
- ・ 定例研究会について◎石川秀勇
- ・ 「耕」「電子耕」単行本を通じた社会への発信◎田口 均
- ・ 研究所のこれからを考える◎渡邊 博

〈山崎（記念）農業賞受賞者はいま〉

- ・ 丸藤政吉〈第 5 回・1979 年〉現場と共に＝「農村通信」創刊 800 号
- ・ 小林芳正〈第 8 回・1982 年〉ふるさとへの想い—いまも消えることなく
- ・ 古野隆雄・久美子〈第 21 回・1996 年〉合鴨家族の 20 年
—進化し続ける合鴨水稲同時作
- ・ 鋸谷 茂〈第 29 回・2004 年〉自然の摂理に基づいた林業技術を現場で実践
- ・ 榎本牧場〈第 30 回・2005 年〉都市近郊で酪農の 6 次化をさらに展開
- ・ 大張物産センターなんでもや〈第 32 回・2007 年〉

- 地区民が求める「なんでもや」であり続けること
- ・野口種苗研究所・野口 勲〈第 33 回・2008 年〉
自然回帰の時代のなかで固定種の普及につとめる
 - ・NPO 法人 福島県有機農業ネットワーク〈第 36 回・2012 年〉
福島の有機農業再興のために

■第 147 定例研究会 愛郷 vs 愛国— TPP 問題へのもう一つの視座◎宇根 豊
〈書評〉宇根 豊 著『百姓学宣言』／徳永光俊

<編集後記> 「プライドを捨てる」

衆議院が解散し、12月14日に選挙が行なわれる。「アベノミクス解散」なのだそう。だが、テレビや新聞などをみるかぎり疑問の声が多い。アベノミクスの恩恵は庶民には届いたとは言いがたく、むしろ消費税増や円安による値上がりのほうが懐にひびいている。そして、税収の伸び悩み云々といいながら選挙費は「700億円」もかかるのだという。

話は変わるが、先日、同窓生たちと酒をのんだ。オリンピックイヤーの生まれだから歳は言うまい。それなりに仕事は頑張っているものの、会社や家庭でのポジションや、年齢や健康のことを考えると、いまひとつ氣勢が上がりにくい年頃ではある。

ある友人から「プライドを捨てる」という言葉が飛び出した。「自分がいちばんだと思わないこと、それがイライラしない、それでいて格好のいい生き方につながるのではないか」。

飲んだ席の発言だから、こちらの記憶もあいまいである。がしかし、解散を決意した首相はまさに「プライドの塊」のようにも見える。一国の首相なのだからプライドをもって当たり前、という見方もできよう。がしかし、そのプライドが相当あだになっているように見えるのはこちらのひがみ根性か。

「わたしが決めるんです。わたしが責任をとるんです」といった威勢のよい言葉がこの首相からはなんども聞かれた。テレビのコメンテーターなどの発言に対して「それは間違っています」と切って捨てるような言葉もたびたびあった。

だれかが決めなくてはならないというのはわかる。しかしまわりの言葉にきちんと耳を傾けようとせず、独断専行でことをすすめるのであれば、それに巻き込まれる国民はたまったものではないし、そもそもそんな生き方はあまり格好のよいものではないだろう。プライドは相手から見えないくらいがちょうどいい。

2014年11月27日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考—グローバル化の次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんの方の書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん (文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)
グローバルの次は何? ~卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん (大地を守る会)

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん (長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん (拓殖大学政経学部)

ブログ：代替案 書評：『自給再考—グローバル化の次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん (イラストレーター・ライター)

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺りたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ (2009/01/31)

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん ((株) 共に生きるために)

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎塩見直紀さん (半農半X 研究所、執筆者)

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

- 1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
- 3、1回1テーマ、10行位に。
- 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
- 5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 373 号の締め切りは 12 月 08 日、発行は 12 月 11 日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 372 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2014.11.027（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』 *****